

## 全北大学校・李貞愛教授との共同研究について

全北大学校の李貞愛教授は、韓国語教育論、韓国語教材の研究・教授学などを専攻なさっており、大韓民国において国語学・教育学研究を牽引する存在として、顕著な業績を挙げておられる研究者の一人である。

李教授は2024年8月16日(金)から28日(水)までの期間、朴永奎(本学副学長・国際コミュニケーション学科教授)、藤本健太郎(同学科准教授)との共同研究を目的として来崎。

滞在期間中の8月26日(月)から27日(火)にかけて、李教授と朴・藤本の三人は韓国語学関係資料の閲覧及び収集を主な目的として福岡市内に出張した。

初日には九州大学附属図書館にて『交隣須知』(韓国語の会話用例集)、『韓語通』(韓国語の文法解説書)をはじめとする、明治時代に日本で刊行された複数の韓国語教材の閲覧及び収集を実施。同館が所蔵する韓国語学関係資料には、対馬出身で外務省の韓国通訳官を務め、日本における韓国語学研究の先駆者としても知られる前間恭作(1867～1942)の旧蔵にかかる「在山楼文庫」が含まれている。日本国内における貴重な韓国語学関係資料を直接目にする機会に恵まれたことはたいへんな幸運であった。

とりわけ、1904年に前間による校訂のもと再刊された『交隣須知』について、日朝関係史を専攻する藤本が成立に至る背景を解説したところ、李教授は日本における韓国語教材の研究を進めるうえで、極めて貴重な参考文献であるとの見解を示された。

調査者三人の意見としては、前間による再刊以前に出版された『交隣須知』をあわせて参照しながら、本文中に記載されている会話用例を比較検討する方法により、明治時代の日本国内における韓国語教育の水準を知ることができるとの結論で一致した。また『交隣須知』については、およそ100年前に実際に使用されていた韓国語教材として、本学の韓国語専修の学生を主な対象とした教育活動にも活用できる可能性があるとの意見も出た。今後、共同研究の深化を図るためにも、さらに韓国語学関係資料の収集及び共有に努めてゆくことを相互に確認した。



韓国語学関係資料調査時の様子

2日目には朝鮮半島との交流に関する展示が行われている福岡市博物館を視察。同館に展示されている国宝「金印」をはじめとする展示品を熟覧しながら、日韓両国の交流の歴史について意見交換している。今回の共同研究を契機として、全北大学校と本学との間で研究・教育上の交流が促進されることを願う次第である。

《謝辞》

今回の共同研究を通じて、李貞愛

教授から本学教員の研究活動に関する貴重なご指導を賜りました。また、九州大学附属図書館での調査に際して、関連資料の所在状況などをご教示くださった九州大学人文科学府の森平雅彦教授、閲覧手続きや出納の労をとってくださった九州大学附属図書館利用者サービス課の皆様方に対しても、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

文責：藤本健太郎（国際コミュニケーション准教授）